国際ロータリー第２６３０地区　岐阜県　濃飛グループ

高山西ロータリークラブ　　創立１９６６年１月１５日

例会報告

Rotary

2022－2023年度
RIテーマ

イマジン
ロータリー

第2679回例会
令和4年9月9日

S．A．A担当例会

●例会日　毎週金曜日　12：30～13：30
●例会場　高山市花里町 3-33-3　TEL　34-3988
大垣共立銀行高山支店　４Ｆ
●会　長　垣内 秀文
●幹　事　大村 貴之
●会報委員長　中島 一成

＜会長の時間＞

つい先日某事業施設での出来事ですが、停電作業を要する工事でキュービクルより送電をストップすることになり、午後１時で切れる旨は事業所スタッフには伝わっていたはずでしたが、エレベーター内に女性が閉じ込められてしまいました、エレベーター内の非常ボタンを押して暫くすると業者がきて無時脱出、事なきを得たわけですが本人はきっと心臓がバクバクドキドキしたことでしょう。
これについては避難訓練等を行っていたにもかかわらず、個々の危機管理が機能していなかった事で起きました、ともすれば人的災害に繋がったかもしれません。そこで一週間ずれましたが９月１日は防災の日でしたので災害について少しだけお話しさせていただきます。

1000 年に１度と言われた東日本大震災を私たちは見てきたわけですが、この震災での死者・行方不明者数は 25,949 人、被害総額は約 17 兆円だそうです。当時の光景を思い出すと何とも言えない気持ちになります。そして、防災の日が制定されるきっかけとなった関東大震災は、およそ 100 年前の 1923 年２年９月１日に起きました。死者・行方不明者は約 10 万人、被害総額は現在の貨幣価値に換算すると約 320 兆円で明治以降の日本の地震被害として最大規模でした。防災意識とは、「普段から災害に巻き込まれないように、また巻き込まれたとしても、被害を最小限に抑えようと備えておく注意深さのこと」です。

余談ですが我が家には防災意識の大変強い嫁がおり、5年保存水、トイレットペーパー、ティッシュ、マスク等々備えがいつでも十分にあります。決して短期間に買い占めをしたわけでなく、母親から受け継いだDNA がそうさせているようです。コロナでマスクが品薄になった時も、デマでトイレットペーパーが店頭から無くなっても、備蓄のおかげで我が家は潤っていたので身内は勿論、友人に差し上げたりして、大変喜ばれましたが、その時の嫁の「どや顔」が忘れられません。

話を戻して備えの大事な１つ目は、「物の備え」で非常持ち出し袋ですが、中身は何か調べてみると次の通りので、ソーラー多機能ラジオライト・5 年保存水・シート・缶詰ソフトパン・軍手レインコート・加熱剤・エアーまくら、布ガムテープ・非常用簡易トイレ・アルコール除菌ジェル・カイロ・乾電池・マスク・スリッパ・救急セット・歯ブラシ・シャンプー・タオル・緊急時連絡シート等々ありました。
2 つ目は「行動の備え」で安否確認について家族で次のような事を話し合って決めておくと良いです。1.災害発生時に取るべき行動 2.様々なケースを想定した避難　3.安否確認方法　4.集合場所　5.災害用伝言ダイヤルの利用等々です。

３つ目、「心の備え」ですが私なりに思ったのは、結局は一人一人、日頃から災害に対して、高い意識を持って自分の身を守ることの大切さを知ることだと思います。地震工学地域防災の専門家が「1000 年の周期、そして 100 年の周期、大地震や火山活動は一定のサイクルで発生し、社会や経済に大きな影響を与えてきました。過去からのメッセージを解明することが、未来の予測に欠かせない」といいます。現代科学に頼りすぎる危うさと、歴史に学ぶ大切さを唱えており、現代科学に頼り過ぎず、過去の災害を知る事で防災に繋がると思います。

災害には、大きな自然の力による天災とは別に、被害を拡散したり二次災害を引き起こしたりしてしまう人災もあります。気候変動の影響や開発による、乾燥化が招いた森林延焼は人災の影響も指摘され、自然が持っていた回復力が、開発によって失われた結果、被害が拡大したとも言えます。大丈夫だと思って開発を続けているうちに、自然災害が起こり、取り返しがつかない事故や二次災害が引き起こったりします。我々はいつ起こるか分からない天災に備えると共に、災害が拡大する要因となる人災をできるだけは絶対に起こさないよう注意深く意識し、発言し、行動していくことが問われているのかもしれません。

我がクラブでは、2019 度に小学生高学年を対象とした『防災と自然に触れる体験学習会』を開催し、親子共々で防災の意識付けの一助になったと確信しています、我々ロータリアンも防災の備えを常に意識していますか？　どうぞ今一度ご家族と一緒に確認してください。

＜幹事報告＞

◎ＲＩ日本事務局より
・９月のロータリーレートについて　１ドル　139 円（8 月 133 円）

◎ガバナー会、第 2750 地区ガバナーより
・世界ポリオデー2022 ポリオ根絶啓蒙動画　素材提供のお願い
　内　容　　ポリオ根絶まで「あと少し」のポーズを動画撮影
　送付先　　世界ポリオデー2022 映画ブレス上映会実行委員長

◎高山市都市提携委員会より
・友好都市提携 40 周年記念　市民ツアーの開催について（ご案内）
　期日　　越前市：10 月 29 日（土）、
　　平塚市：11 月 19 日（土）～20 日（日）
　申 込　9 月 16 日（金）までに都市提携委員会事務局へ

＜出席報告＞

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
２９名	－	２９名	３５名	８２．８６％

＜本日のプログラム＞　Ｓ．Ａ．Ａ　米澤 久二

飛騨歴史民俗学会　茂住修史さんを紹介します。まさに修史さんというお名前のとおり郷土の歴史を研究されて数多くの論文を発表され、講演を多くされております。
私と門前さんの同級生であります。高校時代の思い出は、とにかく字がずば抜けてうまかったことです。
本日のスピーチよろしくお願いいたします。

２０２２－２０２３年度
高山西ロータリークラブ　テーマ
未来を見据え
更に親睦を深め、皆でクラブを再活性化しよう

例会報告

～金森長近・可重の水利戦略～
高山と古川の街づくり

郷土史家　茂住 修史（ながふみ） 様

今日は高山と、それから私は古川の出身ということでその両方に関係した歴史の話をというお話でございました。古川町それから高山町がいつ頃できて、どうだって言うようなことを色々勉強してまいりましたので、今から約430年前金森長近、金森可重が秀吉の命によって飛騨を平定して、そしてまたその領主になったというそれから街づくりをしたと言う、そこら辺の話をさせていただきたいと思います。内容としては人が住む町づくりをするにはそこにその水の便ですね、人が生活する水の便をどのようにして作り上げたかと計画したかとそういうことを中心にお話をさせていただきたいと思います。

それではお手元の資料をご覧ください。表紙の下のところには金森長近、可重という二人が何時頃どのような経緯で飛騨に入ってきたかというようなことを簡単に載せております。

1600年の関ヶ原の戦い、それで徳川という治世ができていきますが、それより前は誰がどの武将が日本を治めたということは決まって決まっていないようなそういう時代でございました。ちょうど1600年から15年前に金森長近、可重はこの飛騨へ入ってきました。天正13年という年に秀吉の命を受けて、飛騨を平定しその次の年天正14年という年に飛騨の領主ということで飛騨へ入ってきて、そして金森長近はその家来が法印衆、金森法印という名前で信長が亡くなった時に頭を丸めましたので、その家来を法印衆といいます、その家来たちが中心になって高山の街を作り上げました。それに対して可重、これは実子ではありませんが長近の後を継ぐということになります。その家来は出雲守という称を得て いましたから出雲衆という風に家来が呼ばれておりましてその家来を中心に古川の街それから古川の城を作りました。この二つはそれぞれ違う軍団でありまして、それぞれ飛騨を平定する時も二手に分かれてそして中央へ攻め昇りましたので、それぞれ長近を中心とした軍団、それから可重を中心とした軍団がもうすでに出来上がっていたという風に思っていただきたいと思います。

一枚めくっていただいて、これは高山の今の現在の姿の所に金森長近、可重がやってきた時、 飛騨を平定し領主になっていたのは三木頼綱。三木氏はどういうところに拠点を置いていたかということを示しております。それから長近が高山の街をどのようなところに作ったかということを簡単に示しております。左の方の松倉城を中心として三木頼綱は城を構えました。それから上のほうの岡本豊後守、これは三木の拠点であります。右の方に三仏寺城跡があります。今は三福寺と呼ばれていますが、もともとは三仏寺というお寺がありこれにちなんでいると思いますが三仏寺城がありました。これも三木の重要な拠点でした。そして右に鍋山城、これも三木の二番目の拠点と言われるほど重要な拠点でした。それから下の方に畑六郎左衛門と書いておりますが江名子を中心に勢力を持っていた三木の家来ですが、こういう形で今の高山よりも一回り外の方にグルーっと円を描いて、そこにお城を構えそれから農民を集めて抑えていたということがこれでわかります。

それに対して真ん中の所、今の高山の街ですが高山城の跡があり商人街があり武家地であり照蓮寺と書いておりますがここを中心に金森長近が高山の街を作りました。実はこの中央にあたり今の高山のこの場所はあまり人の住んでいるような場所ではなくて、宮川のここら辺は幅が広くて今の宮川の多分10倍ぐらい幅が広いと思いますが幅広くて河原であったそういう場所です。その河原であったところにうまく街づくりをしましてそこに商人街を作ります。今の一番町二番町三番町今の一之町二之町三之町の街づくりをします。それから武家地とは今の高山城から今の別院との間が非常にこの今の一、二、三之町に比べると高台のところです。空町と言いましたがここのところに武士の屋敷を作り上げました。そういう風な構造でそれまで三木が治めていた三木が作っていた街とは全く違うところに人が住むそういう街を作り上げました。一枚めくってください。これは金森の金森時代の一番終わり頃の図面ですが金森が街を作った頃のことを参考にしたいと思って持って参りました。先ほどお話した水の便から生活のことをどのようにしていたかということを話したいと思います。今話したように今の宮川の筋は実は一、二、三之町の方まで広がっていて河原になっていたという感じです。それを今の三之町とそれから本町との間、こちらの方へ川をグッ一縮めてそしてそれぞれ堤防を作って、そして河原であった所に一、二、三之町というそういう風な町人街を作りました。したがって河原ですからそこに井戸を掘れば水が出ます。町人が生活のための水というものはおのずと井戸から楽に出る良いとこでありました。ただその水は河原の水ですから川が増水し色々するとその井戸水が濁った水が出るというようなことがたくさんありました。それで一之町の方は武家地に近い方は崖になっていますから、その崖のところに横に井戸を掘って、それを横井戸と言いますが、そこから水を出す清水がわくというか、横井戸を掘って生活水を得ていました。今の上水道が出来てからそれが廃止されました。

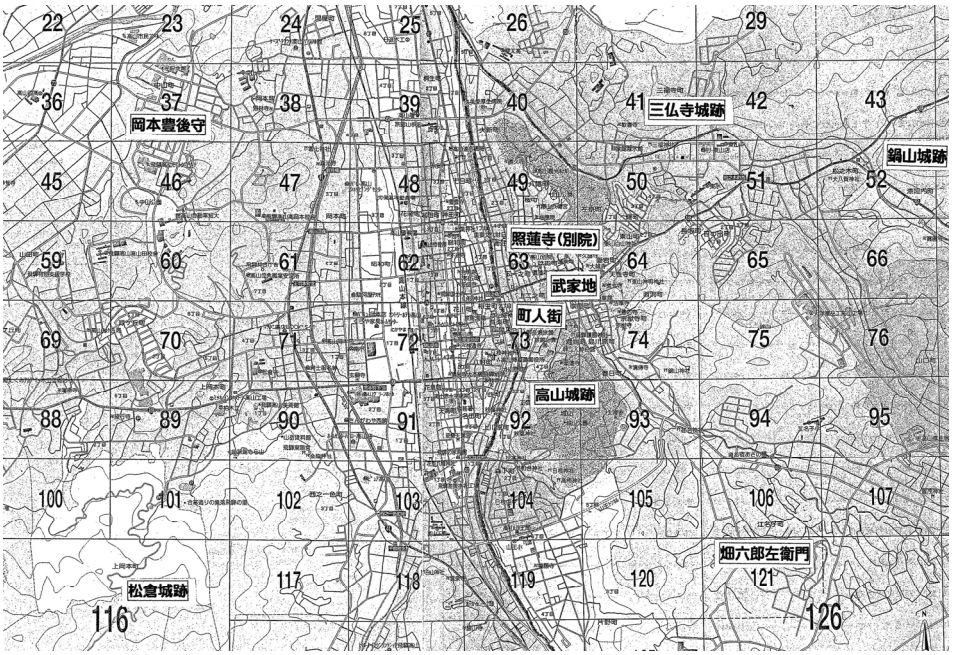
図面を見ていただいて、お城の方、今度は高台の方で、下の方は水があるとして高台の方はどうやって水を得ていたかたかというと、お城のところに丸が打ってありますが、この場所は実は高山城は山のところにできたお城ですから、清水が湧くような箇所が何か所もありました。この丸のところは清水が湧く場所若しくは二つの丸が線で繋がれているのは本丸の下のところは非常に清水がでた場所でそこから下の二の丸の方へ水が引かれていた、そういうことを示しているということです。それから三之丸堀というのが書かれていますが、ご承知のように三之丸のところだけに堀があって他には堀が全然ありません。残っているか残っていないかじゃなくて元々作られておりませんでした。この三之丸堀というのは現場へ行けばわかりますが、非常に狭くて本当に戦いのために作られたのかなあと思うような、そういう堀でございます。そこで色々調べてみますとこの武家地、城から照蓮寺までの間のこの高台のところはどうやって武士の屋敷では水を得ていたかということで色々調べてみますと、大概は井戸があってその井戸は上の方の江名子川の方から、江名子川は岩盤でできた川ですから、その水というのは下の方に潜り込むというというよりも岩盤の上を走っているという傾向があるようです。ですから一応武家地で井戸を掘ればこの江名子川の伏流水にあたるものが出たのではないかと考えらえます。ただし地下深くにたくさんの水があると言うわけではないですから、もうそれを補うためにこの三之丸堀というものができたのではないかなという思いをしております。実は古川の方でも城の堀というものを水の便にある程度使っている傾向があります。そこで一枚めくっていただきます。この堀が汚れて草が生えて大変だということがありましてこれの発掘調査がありました。調査された方から色々話を聞きました。この堀は非常に深くて7Ｍ くらい深い堀だったそうです。全部泥をあげてしまい調べると、堀は下の方まで全然石積みがなく、ただ土を掘り上げているだけのそういう堀でした。普通城の堀は下から石積みが全部ありまして、ちゃんと石垣という形で出来上がっているのが堀です。ところが三之丸堀は全く石積みがなくてむしろ一番上の水のないところで土留めの石がちょっとあるくらいで、中の方は全く石積みがないということを聞きました。そういうことを考えると、ここから水がしみ込んでそして武家地の方へ、傾斜しますからそちらへしみ込んで地下水を井戸で上げて、江名子川の水に更に足してそして補ったのではないかとおもわれます。

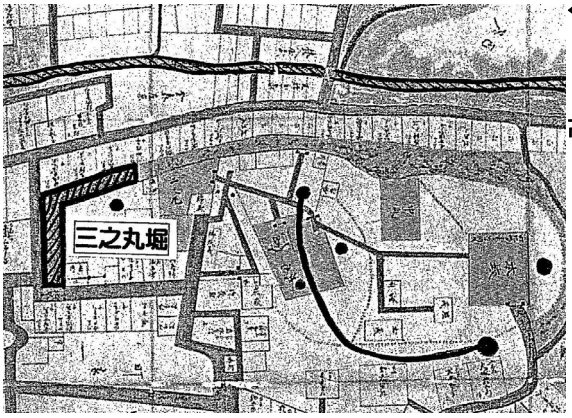
例会報告

江名子川の上流、大隆寺、この下から現在三之丸堀へ向かって用水が走っています。最後のところはちょっとそのまま三之丸堀に入らず違う形で入っておりますが、途中までは残っております。江名子川上流から三之丸堀に入って、その水を武家地の水として使ったのではないか、と考えます。

それから江名子川ですが左京屋敷があって一之新町二之新町横を通って今の日下部邸で曲がって宮川に合流するようになっていますが、金森長近が高山を作ったころはこの左京屋敷というものはなくて、江名子川は八幡宮の方へまっすぐ流れてその途中で宮川に合流してここで曲がっていることはなかったという風に言われております。一之町、二之町、三之町この一之新町二之新町という後にできて名前が付きますがもう始めから、もっと下流の大新町に近い方まで町組の計画があったという風に考えられております 。

（以下　お話は古川の街づくり、に進みますが　紙面の都合上残念ですが省略させていただきます。　文責　米澤久二）

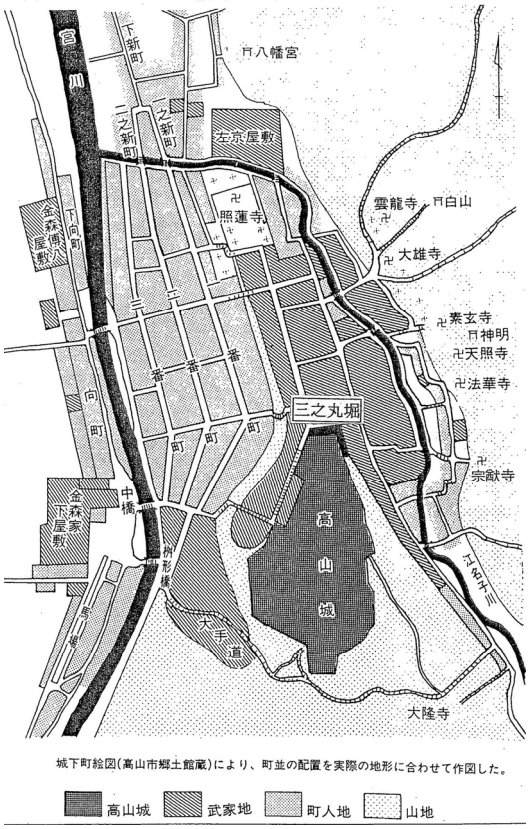




← 高山城下町絵図
「わかりやすい岐阜県史」
H13.3刊より

高山城下町配置図　→
「飛騨 金森氏」
S61.5刊より

高山城下町配置図（金森時代末期の道路及び武家地、町人地、寺社）



＜ニコニコボックス＞

●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

本日はＳＡＡ担当例会です。茂住 修史 様のご来訪を心より歓迎いたします。卓話を楽しみにしておりますのでよろしくお願いします。

●米澤 久二さん、門前 庄次郎さん

同級生の茂住修史さんのご来訪を熱烈歓迎いたします。本日の卓話よろしくお願いします。今

●塚本 直人さん

季節が夏から秋に変わり水田の稲穂がみえるようになりました。本来なら秋のお祭りの時期ですが、今年も地元の神社は神事のみの寂しいまつりです。鐘や笛、そして獅子舞が早く出来るよう祈ります。

●田邊 淳さん

高山エース旅行センターでは、来る10月5日（水）14時から、高山グリーンホテルにおいて「クルーズセミナー」を開催します。ＴＶにも出演される著名なクルーズマイスター斎藤 和宏 氏を招き、船旅初心者でも楽しんでいただける船旅の魅力を語って頂きます。参加費無料ですが、予約制ですので必ず事前予約をお願いします。詳細はチラシを掲示板に掲出していますのでご覧下さい。

●斎藤 章さん、古橋 直彦さん、田中 武さん、田邊　淳さん、杉山 和宏さん、松田 康弘さん、中島 一成さん、堀　幸一郎さん、

・今週から田中明新市長による市政運営がスタートしました。コロナで大きく傷ついた経済、少子高齢化、人口減少など難問山積みですが、所信表明での「この街に暮らせてよかったと実感する街づくり」に大いに期待しています。頑張れ田中市長！！

・英国エリザベス女王が8日お亡くなりになりました。96歳でした。在位70年7カ月は歴代の同国君主で最長でした。ご冥福をお祈りします。